

ロジックモデル進捗管理表(小児医療)

資料2

番号 C 個別施策

1	小児科医師の確保
2	他診療科・多職種連携や補完的手段の検討

3	適正受診を促す取り組みの推進
4	二次医療圏における24時間365日対応できる小児救急医療体制の確保
5	災害時の対応整備

6	医療的ケア児に対応することが出来る医療機関等の拡充
---	---------------------------

番号 B 中間アウトカム

一般小児医療を支える医療体制の充実	指標項目	基準年	直近の前々年度	直近の前年度	直近	結果	目標
指標1	小児科医数 小児人口10万人当たり小児科医数	R2年 100.0人	-	R4年 110.8人	R6年 114.3人	↑	107.3人
指標2	小児医療を実施する病院・診療所数 小児人口10万人当たり小児科病院・診療所数	R2年 診療所69.6か所 病院15.4か所	R3 診療所数-か所 病院数15.3か所	R4 診療所数-か所 病院数15.8か所	R5年 診療所72.6か所 病院15.4か所	↑	維持
指標3	診療所の医師数 小児人口10万人当たり	R2年 31.7人	-	R4年 36.25人	R6年 40.1人	↑	全国平均 (R2年 46.2人)

小児救急医療体制の整備	指標項目	基準年	直近の前々年度	直近の前年度	直近	結果	目標
指標1	第3次・第2次医療機関における小児救急受け入れ患者に占める入院患者の割合 入院率	R2 8.3%	R2 8.3%	R3 7.7%	R4 7.3%	↓	全国並み (R2年度:19.3%)
指標2	災害時小児・周産期リエゾン任命者数 任命者数	R5 0人	-	R5 0人	R6 13人	↑	16名

在宅で療育・療養生活が継続できる医療体制の整備	指標項目	基準年	直近の前々年度	直近の前年度	直近	結果	目標
指標1	医療的ケア児に対応できる病院・診療所数	R4年度 14 うち 病院5 診療所9	-	-	R6年度 12 うち 病院9 診療所3	↓	増加
指標2	小児に対応する在宅医療支援薬局数 訪問薬剤管理指導実施薬局数 訪問薬剤利用者数	R4年度 在宅医療支援薬局数 58か所 訪問薬剤管理指導の実施薬局数 12か所 訪問薬剤利用者数 225人	R4年度 在宅医療支援薬局数 58か所 訪問薬剤管理指導の実施薬局数 12か所 訪問薬剤利用者数 225人	R5年度 在宅医療支援薬局数 33か所 訪問薬剤管理指導の実施薬局数 32か所 訪問薬剤利用者数 140人	R6年度 在宅医療支援薬局数 26か所 訪問薬剤管理指導の実施薬局数 35か所 訪問薬剤利用者数 127人	→	維持
指標3	小児に対応する訪問看護ステーション数	R4 全県 74か所 (圏域別) 北部 5 中部 27 南部 36 宮古 3 八重山 3	R4 全県 74か所 (圏域別) 北部 5 中部 27 南部 36 宮古 3 八重山 3	R5 全県 78か所 (圏域別) 北部 2 中部 27 南部 45 宮古 2 八重山 2	R6 全県 85か所 (圏域別) 北部 4 中部 35 南部 42 宮古 1 八重山 3	↑	維持
指標4	院外関係機関も含めた退院支援カンファレンスを行う病院数	-	-	R5年度 7病院	R6年度 7病院	-	増加

番号 A 分野アウトカム

(結果の表記法)

↑ : 改善
↓ : 後退
→ : 維持
— : その他

圏域内で完結すべき小児医療提供体制の確保	指標項目	基準年	直近の前々年度	直近の前年度	直近	結果	目標
指標1	小児中核病院から県外への搬送症例数と内容把握(県内で完結すべき小児医療症例の整理) 搬送数	-	-	R5 8件	R6 3件	-	0件
指標2	乳児死亡率 幼児死亡率 小児死亡率	R3 乳児死亡率 1.6人 幼児死亡率 33人 小児死亡率 14人	R4 乳児死亡率 1.7人 幼児死亡率 31人 小児死亡率 14人	R5 乳児死亡率 1.8人 幼児死亡率 34人 小児死亡率 14人	R6 乳児死亡率 2.0人 幼児死亡率 33人 小児死亡率 11人	→	維持

こどもの状態に応じた療育・療養環境を整備するための医療提供体制が確保されている。	指標項目	基準年	直近の前々年度	直近の前年度	直近	結果	目標
指標1	訪問看護を利用した児の数 利用人数	-	-	R4年度 4,804人	R5年度 5,486人	-	増加
指標2	社会的要因による入院児数 入院児数	-	-	R5年 0人	R6年 0人	-	減少